

- 1 主題名 自分の中にある誠実な心【内容項目 A(2) 正直、誠実】
- 2 ねらい 手品師の誠実な生き方について考え、自分自身に誠実に生活しようとする心情を育てる。
教材名 「手品師」(「小学校 道徳の指導資料とその利用1」文部省)



3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。

過ちや失敗は誰にでも起こり得ることである。そのときに、ともするとそのことで自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしをしたことがある。しかし、そのような振る舞いはあくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。このことによって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心のすがすがしい明るさでもある。このような誠実な生き方を大切に育てていくことが重要である。

そこで、自分を客観的に見つめられるようになる高学年のこの時期に、自分の利害や打算的な考えに流されず、自分の良心に従って行動しようとする心情を育てていくことが大切であると考え。

(2) 児童の実態

第5学年においては、自分自身に対する誠実さがより一層求められるが、学校生活では、よくないことと知りつつも自分の意に反して周囲に流されてしまうことや傍観者として過ごしてしまうこともある。このことは決して心地のよいものではなく、後ろめたさから、誇りや自信を失ってしまうことにもつながる。他の人の受け止めに過度に意識することなく、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けても発揮されるよう、誠実な生き方を大切にしながら、みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが重要である。

そこで、自分の心に誠実に生活することは「自分が楽しく生活する」ことにつながり、更には、「みんなと楽しい生活ができる」ことにつながっているということを見事に気付かせたい。誠実に生きることの大切さについて考えさせ、誠実に明るく生活しようとする心情を育てたい。

(3) 教材の活用について

本教材は、大劇場に立とうと努力していた手品師が、寂しそうにしていた男の子との約束と、夢見ている大劇場に立てるチャンスとの間で迷い葛藤をする話である。主人公の手品師が悩み抜き、決心するまでの心の迷いや葛藤を見つめさせることで、男の子との約束を果たし、誠実に行動した手品師の満足感に気付かせたい。手品師が友人からの電話の後、最終的に決心するまでの迷いや葛藤などの心の動きについて深く考えさせたい。

4 学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ◎中心となる発問 ・予想される児童の反応)	◇指導の留意点
導入	1 アンケートの結果から、「誠実」に対する問題意識をもつ。 「誠実」についてのアンケート結果を紹介します。 今日は、みんなが答えてくれた「誠実」について、詳しく考えていきましょう。	◇誠実についての児童の考えを確認し、アンケート結果から問題意識をもたせる。
展開	2 教材「手品師」を読んで話し合う。 ○大劇場に立てるチャンスと男の子との約束とで、迷いに迷っている手品師はどんな気持ちだったでしょう。 《大劇場》 ・大劇場で手品を見せたい。夢がかなう。 ・この機会を逃したら、もうチャンスはないかもしれない。 《男の子》 ・約束は守らないといけない。 ・男の子が楽しみにしている。悲しませたくない。 ・男の子を笑顔にさせたい。 ◎誘いを断り、男の子との約束を選んだ手品師が大切にしていたものは何でしょう。 ・男の子の思い。笑顔。 ・自分のことを優先するのではなく、相手を思いやること。 ・男の子を喜ばせたいという思い。 ・(自分のためにも、男の子のためにも) 約束を守ること。 ・周りから何を言われても、初めに決めたことをやり通すこと。 3 誠実に生活することについて、自分の経験を振り返る。 ○手品師の生き方からどんなことを学びましたか。 ・物事の判断をつい損得で考えてしまうけれど、相手に誠実であることの方が大切だということを学んだ。 ・約束を守ることは相手だけでなく、自分のためにも大切なことだと思った。 ・誠実に生きるということは、嘘をついたり、だましたりせずに明るく生活することだと分かった。	◇手品師の気持ちを考えながら範読を聞くことを伝える。 ◇大劇場への思いと男の子との約束とで迷いに迷っている手品師の気持ちを考えさせる。 ◇手品師の「誠実」について、話し合い活動を設定し、多面的・多角的に考えさせる。 ◇「誰のために大切にしたいのか」と問い返すことで、手品師の行動は、相手のためだけでなく、自分のためにも大切なことだということを押さえる。 ◇ワークシートの活用 ◇導入のアンケート結果を振り返らせ、誠実な生き方について今までの自分の経験を想起させる。 ◇誠実に生活することは自分自身を大切にすることにもつながっていることを押さえる。
終末	4 教師の説話を聞く。 「手品師」の作者が、この手品師にあてた手紙を紹介します。	◇誠実に生活しようとする気持ちを高めさせる。

5 評価

- ・手品師の生き方から誠実について自分の生活を振り返り、誠実に生活したときの感じ方や考え方をみつけることができたか。
- ・誠実に生活していくことの実現に向けて、思いや願いをもつことができたか。

授業記録

	学習活動 (T：教師の発問、問いかけ C：児童の発言、反応)
導入	<p>1 アンケートの結果から、「誠実」に対する問題意識をもつ。 T：「誠実」についてのアンケート結果を紹介します。クラスの全員が「誠実にすることは大切である」と答えていますが、「いつも誠実である」と答えている人はいませんでした。この結果を見てどう思いますか。 C：分かっているけど、いつもはできない。そういうものだと思う。 C：やっぱり、実際にするのは難しい。 T：そうですね。実際に行動することは難しいときがある。でも、「誠実」は大切だと思っているのですね。今日は、みんなが答えてくれた「誠実」について、詳しく考えていきましょう。</p>
展開	<p>2 教材「手品師」を読んで話し合う。 T：(手品師の状況、男の子との約束について確認する。) 手品師は大劇場で手品をするのを夢見て、腕を磨いていました。しかし、売れない手品師だったので、その日、食べるのもやっとでした。男の子と出会い、きっと暇だろうと、翌日も手品を見せることを約束しました。その日の夜、友達から電話がかかってきました…。</p> <p>問う</p> <p>発問1 T：手品師の気持ちは、「大劇場のステージに立つ」、「約束した男の子のもとに行く」のどちらの方が強かったと思いますか。(挙手)</p> <p>[グループでの話し合い活動] 座席表シートの活用 [全体での話し合い活動]</p> <p>T：大劇場に立てるチャンスと男の子との約束とで、迷いに迷っていたときの手品師はどんな気持ちだったでしょう。 C：大劇場に行きたい。ずっと夢見ていたことで、チャンスはこの一回だけかもしれない。 T：大劇場への思いについて他に意見はありますか。 C：大劇場に行けば、貧しい暮らしから抜け出せる。 C：男の子に「近くに行ったのに会えなかった」と嘘をついて、約束を破って大劇場へ行けばいい。食べていけなければ、手品を見せることはできないから。 T：男の子の話題が出てきました。男の子への手品師の気持ちはどうでしょうか。 C：約束を破ったら、男の子が悲しい気持ちになる。 C：男の子は寂しそうだったから、元気にしてあげたい。 T：他に意見はありますか。 C：私は男の子のことを一番に思っていたけれど、大劇場への思いも諦められなかったので、迷ってしまったのだと思います。 C：大劇場へ誘ってくれた友達に申し訳ないという気持ちもあったと思います。 T：みんなの意見のように、手品師はいろんな気持ちがあったから、迷っていたんだね。しかし、手品師は、大劇場への誘いをきっぱりと断りました。</p> <p>発問2 T：誘いを断り、男の子との約束を選んだ手品師が大切にしていたものは何でしょう。 T：まず、自分の考えをワークシートに書きましょう。その後グループになり、意見を交換し、自分の考えを見直してみよう。 (ワークシートに記入)</p> <p>判断する ワークシートの活用 [グループでの話し合い活動]</p>

(ワークシートに記入)

[全体での話し合い活動]

- T：では、発表してください。初めの自分の考えがグループで出た考えを受けて、どのように変わったのか。あるいは変わらなかったのかを教えてください。
- C：私は、男の子との約束が手品師の大切にしていたものだと思います。理由は、男の子を悲しませたくなかったからです。でも、Aさんは約束を守ること自体が大切だと言っていました。理由は、約束をしたのは自分だから、自分が言ったことは守らなくてはいけないからだそうです。それを聞いて、約束が大切だという同じ意見でも、理由はちがうということが分かりました。
- C：私の班では、男の子の気持ちを大切にしていたという意見が多く出ました。みんなと話している中で、男の子だからではなく、手品師は相手を思いやる気持ちを大切にしたいのではないかと思います。
- C：私は約束を守ることが大切だと思っていました。班のみんなも男の子のことを大切に思っていたからと意見が出ました。「なるほどな」とみんなが思った意見はBさんで、「友達の誘いがあっても、自分が初めに決めたことがあったら、それをやり抜く」という意見でした。手品師が腕を磨いていたところからも、自分の言ったことをやり抜くことも手品師は大切にしていたと思います。
- T：男の子に対する意見が多くありますが、もし、男の子との約束を守らず、大劇場に行っていたら、手品師はどんな気持ちだったと思いますか。
- C：男の子に対して申し訳ない気持ち。
- C：夢がかなったはずなのに、暗い気持ちで手品をしていたと思う。
- C：大劇場では素晴らしい手品はできなかったと思う。
- C：大劇場に行く友達に返事をした瞬間からずっと後悔したと思う。
- T：では、手品師が大切にしたいものは「誰のため」だったのでしょうか。
- C：男の子のために。
- C：男の子のことも大切にしたいけど、自分のためでもあると思う。自分が約束したから、守らないといけない。もし、裏切られてしまったら、嫌な気持ちになるから、裏切れないと思った。
- C：付け足しで、もし、約束を破っていたら、ずっと嫌な気持ちが残ってしまうから、自分のためにも男の子のためにも、約束を守ったのだと思います。
- T：手品師は、男の子や自分自身の気持ちを大切にしたいと考え、誘いを断って、男の子の前で手品を披露したんですね。
- 3 誠実に生活することについて、自分の経験を振り返る。
- T：授業の始めに、誠実大切なことだけど、いつも誠実でいるのは難しいという意見がありました。そこで、今日は手品師の生き方から誠実について詳しく考えてきました。

気付く

発問3

座席表シートの活用

- T：手品師の生き方からどんなことを学びましたか。
- C：自分だったら、夢を叶えたいから、大劇場へ行ってしまうかもしれない。でも、それは、本当に夢を叶えたことにならない。自分のことばかりでなく、相手のことも考え、何が本当に大切かよく考えることが大事だと思った。
- C：約束を破ったり、嘘をついたりすると、相手が嫌な思いをするだけでなく、自分も嫌な思いをするのだということが分かった。自分のためにも相手のためにも誠実でいたいと思いました。嘘を言いたくなかったときは、手品師を思い出します。
- C：手品師はすごいと思った。大劇場を選ばず、その結果、食べることができなくなってしまう貧しさよりも、約束を破って、心が貧しくなることが嫌だったから、約束を守ることが大切にしたと思う。

終末

- 4 教師の説話を聞く。
- T：(「手品師への手紙」を読む。) 手品師から学んだことを大切にしたいと思います。

観察対象児童Kの学びの姿からの見取り

《本時のねらいに関わって、児童Kへの教師の意図》

「あなたは、誠実に生活を送ることができていますか」という事前アンケートの回答では、「だいたいできている」と回答している。話し合い活動を通して、多様な考えに触れ、自分自身に誠実に生活しようとする大切さを感じ取らせたい。

《道徳科の授業における児童Kの姿》

- ・全体での発表はほとんどなく、指名されても発表することは少ない。
- ・グループでの話し合いでは意見を言うことができる。
- ・友達から反対意見をもらおうと黙ってしまうことがある。

評価の場面	評価の方法	児童の活動や反応の場面
「問う」場面	座席表シート	発問1 グループでの話し合い (友達からの質問に対して回答する。)
「判断する」場面	ワークシート	発問2 ワークシートへの記入 (友達の発言に共感し、意見を追記する。)

児童Kの授業記録

	学習活動 T：教師の発問、問いかけ	K：児童の発言、反応
展開	発問1 T：手品師の気持ちは、「大劇場のステージに立つ」、「約束した男の子のもとに行く」のどちらの方が強かったと思いますか。(挙手) [グループでの話し合い活動] C：男の子との約束を破るけれど、いいの？ T：大劇場に立てるチャンスと男の子との約束とで、迷いに迷っていたときの手品師はどんな気持ちだったでしょう。	K：「大劇場のステージに立つ」に挙手をする。 K：手品師には夢もあるし、大劇場に行くことで他の人に感動を与える。 K：…男の子を説得すればいい。 K：他の児童の（「男の子のもとに行く」意見に対して）「男の子を連れていけばいいのに」とつぶやく。
	発問2 T：誘いを断り、男の子との約束を選んだ手品師が大切にしていたものは何でしょう。 (ワークシートに記入) [グループでの話し合い活動] (ワークシートに記入)	K：(ワークシート)「男の子は、一人で『ぼく』(手品師)を待っているから。」と記入する。 K：(他の児童の発表を聞いて)「男の子をさびしい気持ちにさせないため」、「約束は守る」とワークシートに追記する。

【学習状況の見取り】

発問1では、手品師は大劇場へ行くことへの気持ちが強いという考えをもっていたが、話し合い活動から、手品師が男の子と約束したときの状況やそのときの思いについて考え始めた。大劇場と男の子との約束の間で葛藤し、誠実な心で生活することの大切さを感じ取っていた。

観察対象児童Mの学びの姿からの見取り

《本時のねらいに関わって、児童Mへの教師の意図》

本時の内容項目「正直、誠実」について、児童Mに自分のこととして考えさせたい。「あなたは、誠実に生活を送ることができていますか」という事前アンケートの回答では、「だいたいできている」と回答している。手品師の悩みや葛藤を考えさせることで、ごまかしや過ちから目を背けず、自身自身に誠実に生活しようとする事のすばらしさについて考えさせたい。

《道徳科の授業における児童Mの姿》

- ・全体での話し合い活動では友達の発表をよく聞き、つぶやきが多い。
- ・自分の考えに固執しがちではあるが、友達の意見を聞いたり話し合ったりすることが好きである。

評価の場面	評価の方法	児童の活動や反応の場面
「問う」場面	座席表シート	発問1 グループでの話し合い (自分の考えを発言する。)
「判断する」場面	ワークシート	発問2 ワークシートへの記入 (手品師の行為に共感した思いを追記する。)

児童M授業記録

	学習活動 T：教師の発問、問いかけ	M：児童の発言、反応
展 開	発問1 T：手品師の気持ちは、「大劇場のステージに立つ」、「約束した男の子のもとに行く」のどちらの方が強かったと思いますか。(挙手) [グループでの話し合い活動] C：男の子に「なぜ来なかったの？」と言われたらどうするの。 発問2 T：誘いを断り、男の子との約束を選んだ手品師が大切にしていたものは何でしょう。 (ワークシートに記入) [グループでの話し合い活動] (ワークシートに記入)	M：「大劇場のステージに立つ」に挙手をする。 M：男の子に会わなくていいと思う。会うことに意味はないから。 M：男の子には忘れていたと嘘をつけばいい。大劇場で儲かった方がいいよ。 M：(ワークシート)「お金よりやくそくの方が大事と思った。」と記入する。 M：(ワークシート)「チャンスをのがしてもやさしくするのがすごいと思う。」と追記する。 M：チャンスを逃しても男の子にやさしくすることがすごいと思った。僕なら大劇場に行くから。男の子に手品をしているときは、せっかくだから本気でやろうと思ったんだ。
	ー授業後、教師による聞き取りー	

【学習状況の見取り】

発問1では、自分なら大劇場へ行くという気持ちの強さから、手品師は大劇場へ行くことへの気持ちが強いという考えをもっていたが、グループや全体での話し合い活動から、手品師の男の子への思いに共感し始めた。授業後の教師による聞き取りでは、誠実に生活することの難しさを感じるとともに、手品師の誠実さに触れ、そのすばらしさを感じ取っていた。

道徳科 第()回 ()月()日

♪よりよく生きるシート♪ 名前()

○さそいを断り、男の子との約束を選んだ手品師が大切にしていたものは何でしょう。

自分の考え

メモ

話合いをして考えたこと

授業のふり返し

ふり返りの観点		◎ ○ △
①	自分の考えをもった。	
②	友達の考えを聞き、考えを広げたり深めたりした。	
③	自分自身をふり返って考えた。	

